

福島県園芸振興プロジェクト(第2期)概要

令和8年2月 25 日
園 芸 課

1 第2期プロジェクト策定の趣旨

- 震災から15年経過した、本県の園芸産出額は物価高騰にともなう単価高等の影響もあり、震災前の水準にようやく回復した(震災前対比約103.5%【R6/H22】)。
- 一方で、現園芸振興プロジェクトにおいて、主要10品目を重点化し取り組んだ結果、施設化の促進や園芸拠点の創出等確実な成果も現れており、本県農業の牽引役としての役割を果たしてきた。
- さらなる成長産業化を推進するため、本県ならではの主要な園芸品目において、揺るぎない産地の維持・発展を進めることが必要。
- 現在取り組んでいる「福島県園芸振興プロジェクト(令和3年度～令和7年度)の5年間」の終期に伴い、その成果と課題を踏まえ後継プロジェクトとして策定する。

2 現行プロジェクトの成果と課題

現園芸振興プロジェクトにおいては、主要10品目を選定し、「生産力の強化」と「競争力の強化」を取組の視点として、品目毎の課題に応じて推進活動を展開。

令和3～6年度までの成果(R6)は以下のとおり。

(1) 産出額の成果

令和7年度目標に対して、10品目全体で114.1%となった。

品目別では、もも、日本なし、ぶどう、トマト・ミニトマト、宿根かすみそうの5品目が目標に対して100%以上となった。

(単位:億円)

全体 (10品目)	H30	R4	R5	R6	R7目標	進捗率(R6/R7)
	430	466	486	542	475	114.1%
もも	110	152	154	168	124	135.5%
日本なし	42	40	46	52	41	126.8%
ぶどう	23	33	38	37	24	154.2%
きゅうり	129	100	111	131	145	90.3%
トマト・ミニトマト	70	88	85	100	75	133.3%
アスパラガス	15	15	16	17	21.5	79.1%
さやいんげん	28	24	22	23	26.9	85.5%
りんどう	1.5	1.3	1.4	1.2	2.5	48.0%
トルコギキョウ	4.9	4.9	4.1	4.3	7	61.4%
宿根かすみそう	6.5	8.0	8.2	8.7	8	108.8%

(2) 産出額以外の指標の達成状況

- (もも)老木園の改植の進展(震災後からR6まで541ha)、モモせん孔細菌病の総合防除対策による被害の軽減により、単収が目標を上回った。

- (ぶどう)シャインマスカットの栽培拡大により、ぶどう全体の販売単価を引き上げており、販売単価は目標を大幅に上回った。
- (きゅうり)園芸生産拠点事業等により4産地で施設栽培が拡大し、施設化率の目標を達成した。併せて、国庫事業により2産地で選果場の機能強化が図られた。
- (トマト・ミニトマト)自動灌水装置や高温対策技術の導入拡大により、単収の目標を達成した。
- (アスパラガス)園芸生産拠点事業等により主産地で施設栽培が拡大し、施設化率の目標を達成した。
- (宿根かすみそう)関係者が連携して指導体制を構築し、栽培技術の底上げを図ったことにより、10アールあたりの販売金額目標を達成した。

								(単位：億円)
もも	成果指標	単位	H30	R4	R5	R6	R7目標	進捗率
								(R6/R7)
	栽培面積	ha	1,790	1,760	1,760	1,750	1,817	96.3%
	単収	kg/10a	1,510	1,790	1,840	1,890	1,757	107.6%
	あかつき以外の品種出荷割合	%	53.7	55.3	53.6	54.0	60.0	90.0%
日本なし	成果指標	単位	H30	R4	R5	R6	R7目標	進捗率
								(R6/R7)
	単収	kg/10a	1,970	1,930	1,770	1,970	2,200	89.5%
	ジョイント本数	千本	11.1	17.8	19.2	23.0	21.5	107.0%
	幸水・豊水以外の品種出荷割合	%	20.6	24.4	22.6	25.2	30.0	84.0%
ぶどう	成果指標	単位	H30	R4	R5	R6	R7目標	進捗率
								(R6/R7)
	単収	kg/10a	1,010	881	954	970	1,020	95.1%
	単価	円/kg	866	1,360	1,509	1,453	909	159.8%
きゅうり	成果指標	単位	H30	R4	R5	R6	R7目標	進捗率
								(R6/R7)
	施設化率	%	48	53	55	56	55	101.8%
	単収	kg/10a	7,600	8,049	8,188	7,754	8,600	90.2%
トマト・ミニトマト	成果指標	単位	H30	R4	R5	R6	R7目標	進捗率
								(R6/R7)
	単収(トマト)	kg/10a	7,400	8,557	8,796	8,669	8,800	98.5%
	単収(ミニトマト)	kg/10a	3,700	3,288	3,682	3,438	5,000	68.8%
アスパラガス	成果指標	単位	H30	R4	R5	R6	R7目標	進捗率
								(R6/R7)
	施設化率	%	27	34	36	37	36	102.8%
	単収	kg/10a	427	499	461	490	600	81.7%
	新植・改植面積	ha	—	4.6	3.6	調査中	21	-
さやいんげん	成果指標	単位	H30	R4	R5	R6	R7目標	進捗率
								(R6/R7)
	新規栽培者数	戸	23	43	17	32	70	45.7%
	単収	kg/10a	815	977	825	826	850	97.2%
りんどう	成果指標	単位	H30	R4	R5	R6	R7目標	進捗率
								(R6/R7)
	10a当たりの出荷量	本	12,218	13,523	15,003	11,693	20,000	58.5%
	「天の川」導入面積	ha	0.00	0.24	0.29	0.41	1.00	41.0%
トルコギキョウ	成果指標	単位	H30	R4	R5	R6	R7目標	進捗率
								(R6/R7)
	10a当たりの販売金額	千円	2,411	2,935	2,547	2,966	2,692	110.2%
宿根かすみそう	成果指標	単位	H30	R4	R5	R6	R7目標	進捗率
								(R6/R7)
	10a当たりの販売金額	千円	1,602	2,038	2,121	2,158	1,667	129.5%

(3) 品目別の残された課題

品目名	内 容
もも	<ul style="list-style-type: none"> ・園地継承の促進による新たな担い手の確保 ・品種構成の改善による長期安定出荷体制の構築 ・高温・干ばつ対策による生産の安定化
日本なし	<ul style="list-style-type: none"> ・園地継承の促進による新たな担い手の確保 ・高温・干ばつ対策による生産の安定化 ・花粉供給体制の整備による安定した生産量の確保
ぶどう	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業等技術の導入による省力化、経営規模の拡大 ・高温の影響を受けにくい品種の導入による生産量の拡大 ・長期貯蔵技術の導入による出荷期間の拡大
きゅうり	<ul style="list-style-type: none"> ・産地を維持するための新たな担い手の確保 ・スマート農業等技術の導入による省力化、経営規模の拡大 ・高温、干ばつ対策による生産の安定化 ・施設栽培の更なる拡大による単収の向上
トマト・ミニトマト	<ul style="list-style-type: none"> ・産地を維持するための新たな担い手の確保 ・スマート農業等技術の導入による省力化、経営規模の拡大 ・高温対策による生産の安定化
アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> ・産地を維持するための新たな担い手の確保 ・施設栽培の更なる拡大による単収の向上 ・スマート農業等技術の導入による省力化、経営規模の拡大
さやいんげん	<ul style="list-style-type: none"> ・定年帰農者など新たな担い手の確保 ・高温の影響が少ない品種選定や作型分化による単収の確保
りんどう	<ul style="list-style-type: none"> ・高温の影響が少ない品種への改植推進による単収の向上 ・品種構成の改善による物日以外の需要への対応
トルコギキョウ	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌病害対策による単収の向上 ・環境測定装置を活用した栽培管理技術の高位平準化
宿根かすみそう	<ul style="list-style-type: none"> ・高温、干ばつ対策による生産の安定化 ・省力機械化による経営規模の拡大

(4) 第2期プロジェクト策定における検討事項

- 更なる園芸産出額の拡大に向け、JAグループ福島の「**県域農業振興戦略**」並びに「**園芸ギガ団地構想**」、被災地域の営農再開品目等を踏まえた**対象品目の選定**。
 - ・園芸品目のうち、**販売額が上位の品目**
 - ・加工業務向けなど、**国内産の需要拡大が見込まれる品目**
 - ・省力機械化や規模拡大等により、**経営の柱となりうる品目**
 - ・気象条件や立地条件など、**産地の特性を生かした競争力の高い品目**
 - ・花き輸出額の拡大に寄与する品目
- 国の基本方針に基づく本県「**福島県果樹農業振興計画**」及び「**福島県花き振興計画**」における推進方針や具体的な施策等との整合性。
- 県産農林水産物の販売力強化やブランド力強化を進める「**福島県農林水産物の販売方針**」並びに「**品目別販売戦略**」、「**福島県農林水産物ブランド力強化推進方針**」に基づく産地の「**ならではプラン**」との整合性。
- 各農林事務所「**普及指導計画**」における品目及び活動、成果測定事項との整合性。

3 第2期プロジェクトの期間

令和8年度から12年度までの5年間

4 第2期プロジェクトの対象品目

- (果樹) もも、日本なし、ぶどう、りんご
(野菜) きゅうり、トマト(ミニトマト)、アスパラガス、ピーマン
ブロッコリー、ねぎ、たまねぎ、いちご
(花き) きく類、宿根かすみそう、りんどう、トルコギキョウ、枝物類

17品目の
地方別計
画作成産
地は別紙

※下線品目を追加。

さやいんげんは、生産者の高齢化から省力機械化や大規模化など、経営の柱として積極的な経営改善が困難であるため、本プロジェクトの対象品目から除外し、各産地において既存の推進計画にて対応する。

5 第2期プロジェクトの推進体制

- 県段階
 - ・「福島県園芸振興推進会議」を設置
 - ・果樹、野菜、花き毎に「園芸重点品目専門部会」を開催
 - ・品目別プロジェクトの県計画の策定、進行管理
- 地方段階
 - ・関係機関・団体等との連携体制として「地方園芸振興推進会議(仮称)」を設置(地方の実情に応じ、既存の協議・検討体制等も有効に活用)
 - ・品目別プロジェクトの地方別計画の策定、進行管理

6 第2期プロジェクトの推進方策

(1) 生産力の強化に向けた取組

- ア 新たな担い手の確保・育成(新規栽培者確保、園地継承の取組強化等)
- イ 栽培面積の拡大(スマート農業等、省力機械化による規模拡大、集出荷施設の活用)
- ウ 単収の向上(スマート農業等および高温対策技術の導入等)
- エ 出荷期間の拡大(施設化、品種構成改善による長期出荷等)

(2) 競争力の強化に向けた取組

- ア マーケットインの対応(需要に応じた品種の導入、戦略的輸出の拡大)
- イ 認証制度を活用した認知度向上、契約取引の拡大(認証GAP等)
- ウ 「ふくしま」ならではの付加価値化(県育成オリジナル品種の拡大等)
- エ 環境との共生(土づくり、土壌分析に基づく適正施肥、みどり認定取得等)

7 各種推進方策をすすめる主な補助事業

- 次世代園芸産地づくり支援事業
- 風評に打ち勝つ園芸産地競争力強化事業
- 産地生産力強化総合対策事業
- 果樹園地継承促進事業
- 花き輸出体制構築支援事業
- 第三者認証GAP等取得促進事業
- 産地生産基盤パワーアップ事業(国庫)
- 新基本計画実装・農業構造転換支援事業(国庫)
- 果樹経営支援対策事業(国庫)

8 対象品目別の主な取組概要

品目名	主な取組内容
もも	<p>(成果の指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○産出額(R4～R6の3カ年平均 158 億円→R12 165 億円以上) ○栽培面積(R6 1,750ha→R12 1,840ha) ○単収(R6 1,890kg/10a→R12 2,000kg/10a) ○「あかつき」以外の品種の出荷割合(R6 54.0%→R12 60.0%) <p>(生産力の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎果樹産地協議会の研修園地やJAのトレーニングファームと連携 ○県オリジナル品種等により早生品種から晩生品種までの長期栽培体系を構築 ◎低樹高栽培やロボット草刈機などスマート農業等の栽培技術や省力機械の導入を推進 ◎かん水設備の設置や白色反射シートの敷設など、高温・干ばつに対応した資材の導入を推進 <p>(競争力の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎県オリジナル品種等により6月下旬から8月中旬までの期間に重点を置き、需要に応じた安定出荷体制を構築 ○取引市場や量販店、実需業者等のニーズに合わせて、第三者認証GAP取得を推進
日本なし	<p>(成果の指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○産出額(R4～R6の3カ年平均 46 億円→R12 46 億円以上) ○単収(R6 1,970kg/10a→R12 2,200kg/10a) ○ジョイント本数(R6 23.0 千本→R12 33.1 千本) ○「幸水」「豊水」以外の品種の出荷割合(R6 25.2%→R12 30.0%) <p>(生産力の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎果樹産地協議会の研修園地やJAのトレーニングファームと連携 ○計画的な改植とジョイント栽培等早期成園化技術の導入を推進 ◎ロボットなどスマート農業等の栽培技術や省力機械の導入を推進 ◎凍霜害や高温・干ばつ等に対応した設備や資材等の導入を推進 <p>(競争力の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特色のある県オリジナル品種や晩生品種「甘太」「王秋」等の優良品種の導入を推進 ○取引市場や量販店、実需業者等のニーズに合わせて、第三者認証GAP取得を推進
ぶどう	<p>(成果の指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○産出額(R4～R6の3カ年平均 36 億円→R12 45 億円以上) ○栽培面積(R6 301ha→R12 320ha) ○単収(R6 970kg/10a→R12 1,020kg/10a) <p>(生産力の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎初期投資額を抑えるため、地域の遊休施設や譲渡可能な機械等の活用を推進 ○水稲育苗ハウス等を活用したぶどう栽培の導入をさらに推進

	<p>○新品種の導入と併せた新短梢栽培や根圏制御栽培等の新技術の導入を推進</p> <p>(競争力の強化)</p> <p>◎冷蔵庫等の整備による長期貯蔵技術の導入を推進</p> <p>○消費者ニーズが高く、高温の影響を受けにくい「シャインマスカット」等の導入拡大</p> <p>◎早い時期から出荷できる大粒系の県オリジナル品種「あづましずく」の導入拡大を推進</p>
(新)りんご	<p>(成果の指標)</p> <p>○産出額(R4～R6の3カ年平均 49億円→R12 49億円以上)</p> <p>○単収(R6 1,730kg/10a→R12 1,845kg/10a)</p> <p>(生産力の強化)</p> <p>◎高温対策として、「ふじ」等の品種では葉取らず栽培等の省力的な技術の導入を推進</p> <p>◎ロボットなどスマート農業等として、省力機械の導入を推進</p> <p>◎凍霜害や高温・干ばつ等に対応した設備や資材の導入を推進</p> <p>(競争力の強化)</p> <p>◎晩生の着色に優れた県オリジナル品種「べにこはく」等の導入や長期貯蔵技術の導入を推進</p> <p>○第三者認証GAP取得を推進</p>
きゅうり	<p>(成果の指標)</p> <p>○産出額(R6 131億円→R12 164億円以上)</p> <p>○施設化率(R6 55%→R12 60%)</p> <p>○単収(R6 7.8t/10a→R12 9t/10a)</p> <p>(生産力の強化)</p> <p>◎JAのトレーニングファームや研修受入農家と連携</p> <p>○スマート農業技術として自動かん水同時施肥装置、自走式防除機、環境制御装置等の導入を推進</p> <p>◎高温対策として、遮光資材に加えミスト噴霧装置や換気装置、自動かん水同時施肥装置等、複合環境制御を推進</p> <p>○県下全域で、露地栽培の施設化を一層推進</p> <p>◎栽培管理の合理化や作業の効率化、作業者の安全確保を図るため、大規模経営者等に対し、GAPの導入を推進</p> <p>(競争力の強化)</p> <p>◎生産部会や生産者グループ単位でのみどり認定取得を推進</p> <p>○第三者認証GAP取得を推進</p>
トマト・ミニトマト	<p>(成果の指標)</p> <p>○産出額(R6 100億円→R12 100億円以上)</p> <p>○単収 トマト (R6 7.8t/10a→R12 10t/10a)</p> <p>ミニトマト(R6 3.5t/10a→R12 4.2t/10a)</p> <p>○自動かん水同時施肥装置の導入率(R5:35%→R12:50%)</p> <p>(生産力の強化)</p> <p>◎JAのトレーニングファームや研修受入農家と連携</p> <p>○スマート農業等技術として自動かん水同時施肥装置、自走式防除機、</p>

	<p>環境制御装置等の導入を推進</p> <p>◎夏期高温対策として、遮光資材に加えミスト噴霧装置や換気装置、自動かん水同時施肥装置等、複合環境制御を推進</p>
	<p>(競争力の強化)</p> <p>◎生産部会や生産者グループ単位でのみどり認定取得を推進</p>
アスパラガス	<p>(成果の指標)</p> <p>○産出額(R6 17億円→R12 30億円以上)</p> <p>○施設化率(R6 37%→R12 50%)</p> <p>○単収(R6 490kg/10a→R12 700kg/10a)</p> <p>○新植・改植面積(毎年10ha以上を目標に新植・改植)</p> <p>○県オリジナル品種導入面積(R5 39ha→ R12 50ha)</p>
	<p>(生産力の強化)</p> <p>◎JAのトレーニングファームや研修受入農家と連携</p> <p>◎自動かん水同時施肥装置や自走式防除機等の導入を推進</p> <p>○県下全域で、露地栽培の施設化を一層推進</p>
	<p>(競争力の強化)</p> <p>○県オリジナル品種等の優良品種の導入を推進</p> <p>◎生産部会や生産者グループ単位でのみどり認定取得を推進</p>
(新)ピーマン	<p>(成果の指標)</p> <p>○産出額(R6 13億円→R12 15億円以上)</p> <p>○施設化率(R6 12.5%→R12 20%)</p> <p>○単収(R6 6,500kg/10a→R12 7,150kg/10a)</p>
	<p>(生産力の強化)</p> <p>◎JAのトレーニングファームや研修受入農家と連携</p> <p>○自動かん水同時施肥装置や自走式防除機等の導入を推進</p> <p>◎施設化の推進により、高単収の経営体を育成</p>
	<p>(競争力の強化)</p> <p>○第三者認証GAP取得を推進</p> <p>◎生産部会や生産者グループ単位でのみどり認定取得を推進</p>
(新)ブロッコリー	<p>(成果の指標)</p> <p>○産出額(R6 13億円 → R12 22億円以上)</p> <p>○単収(R5 831kg/10a → R12 1,000kg/10a)</p>
	<p>(生産力の強化)</p> <p>◎県内外からの農地所有適格法人等の参入誘導により新たな担い手を確保</p> <p>◎地域における苗供給体制の整備を推進</p> <p>◎全自動移植機や自走式防除機等の導入を推進</p> <p>◎スマート農業技術として自動操舵技術やドローンの導入を推進</p> <p>◎地域における堆肥の需給システムを構築</p>
	<p>(競争力の強化)</p> <p>◎市場出荷向けの氷詰めや加工向けのコンテナ出荷など、市場や実需者の要望に対応できる出荷体制を整備</p> <p>◎実需企業との契約取引と需要に応じた計画的な生産を推進</p> <p>○第三者認証GAP取得を推進</p>

(新)ねぎ	(成果の指標) ○産出額(R6 32億円→ R12 40億円以上) ○単収(R5 1,470kg/10a→ R12 2,000kg/10a)
	(生産力の強化) ◎高温耐性や晩中生の特性を備えた品種の導入により、 作型を分化し長期出荷体制を構築 ※その他はブロッコリーに同じ
	(競争力の強化) ※ブロッコリーに同じ
(新)たまねぎ	(成果の指標) ○産出額(R12 5億円以上) ○単収(R5 1,730kg/10a→ R12 4,000kg/10a)
	(生産力の強化) ※ブロッコリーに同じ
	(競争力の強化) ※ブロッコリーに同じ
(新)いちご	(成果の指標) ○産出額(R6 28億円→ R12 35億円以上) ○単収(R5 2,280kg/10a→ R12 3,500kg/10a) ○県オリジナル品種「ゆうやけベリー」の栽培面積(R7 6.7ha→ R12 10ha)
	(生産力の強化) ◎JAのトレーニングファームや研修受入農家と連携 ◎スマート農業等技術として自動かん水同時施肥装置や環境制御装置などの導入を推進 ◎初期投資額を抑えるため、地域の遊休施設や譲渡可能な機械等の活用を推進
	(競争力の強化) ◎県オリジナル品種「ゆうやけベリー」等の導入を一層推進
(新)きく類	(成果の指標) ○産出額(R6 7.4億円→ R12 12億円以上) ○栽培面積(R6 71ha→ R12 102ha) ○単収(R6 22千本/10a→ R12 24千本/10a) ○出荷量(R6 15,267千本→ R12 24,490千本)
	(生産力の強化) ◎JAのトレーニングファームや研修受入農家と連携 ◎定植機や自走式防除機、生分解性マルチ等の導入を推進 ◎安定した水源の確保による適期灌水等を推進
	(競争力の強化) ◎高温の影響を受けにくい品種や電照効果の高い品種を利用した電照栽培の導入拡大 ◎市場ニーズをふまえたスマート規格の導入を推進
宿根かすみそう	(成果の指標) ○産出額(R6 8.7億円→ R12 12.5億円以上) ○栽培面積(R6 40ha→ R12 59ha)

	<p>○出荷量(R6 7,309 千本→R12 10,590 千本)</p> <p>(生産力の強化)</p> <p>◎JAのトレーニングファームや研修受入農家と連携</p> <p>◎高温対策として、遮光資材やかん水設備の導入を推進</p> <p>○定植機など省力機械の導入を推進</p> <p>(競争力の強化)</p> <p>◎高温下でも品質が安定する品種の導入や作型の見直し、電照技術の導入を推進により、長期安定出荷体制を確立</p> <p>○様々な需要に応じた出荷規格の対応や、染かすみそうの出荷量の拡大により、国内外における新たな販路を確保</p>
りんどう	<p>(成果の指標)</p> <p>○産出額(R6 1.2 億円→R12 2億円以上)</p> <p>○栽培面積(R6 18ha→R12 19ha)</p> <p>○単収(R6 12 千本/10a→R12 17 千本/10a)</p> <p>○出荷量(R6 2,051 千本→R12 3,280 千本)</p> <p>(生産力の強化)</p> <p>○県オリジナル品種等の栽培を推進</p> <p>◎高温対策として遮光資材等の導入や、需要期前後を補完する品種の導入を推進</p> <p>◎安定した水源の確保による適期かん水等を推進</p> <p>(競争力の強化)</p> <p>○県オリジナル品種や県内民間育成品種などにより、「ふくしま」ならではの特色ある産地を育成</p>
トルコギキョウ	<p>(成果の指標)</p> <p>○産出額(R6 4.3 億円→R12 7億円以上)</p> <p>○単収(R6 18 千本/10a→R12 20 千本/10a)</p> <p>○出荷量(R6 2,558 千本→R12 3,500 千本)</p> <p>(生産力の強化)</p> <p>○土壌病害対策として、病原菌の持ち込みを抑止するための適切な管理や土壌消毒の徹底を推進</p> <p>◎環境測定装置などスマート農業等技術の導入を推進</p> <p>(競争力の強化)</p> <p>◎高温により、品質低下が見られる抑制作型において、「作型適応苗」や遮光資材、循環扇等の導入を推進</p>
(新)枝物類	<p>(成果の指標)</p> <p>○産出額(R6 2.9 億円→R12 4.5 億円以上)</p> <p>(生産力の強化)</p> <p>◎既存生産者が確立している栽培技術について、学ぶ機会の創出やマニュアル化などにより、新たな担い手を確保</p> <p>◎促成用施設や防除機、除草機械等の導入を推進</p> <p>(競争力の強化)</p> <p>◎市場や実需者のニーズを踏まえ、出荷形態や規格等の多様化を推進</p> <p>◎輸出事業者との連携により、海外市場のニーズを踏まえ、産地の戦略的な輸出の取り組みを推進</p>

【別紙】

番号	取組産地 品目	県北			県中			県南	会津			南会津	相双		いわき	合計
		県北	伊達	安達	県中	田村	須賀川		会津	喜多方	会津坂下		相双	双葉		
1	もも	○	○													2
2	日本なし	○		○	○		○	○					○		○	7
3	ぶどう	○	○		○			○	○					○		6
4	りんご	○					○		○		○					4
5	きゅうり	○	○	○	○		○	○	○	○			○			10
6	トマト(ミニトマト)			○	○	○		○	○	○	○				○	9
7	アスパラガス		○		○				○	○	○	○				6
8	ピーマン			○		○									○	3
9	ブロッコリー							○						○	○	3
10	ねぎ					○								○	○	3
11	たまねぎ													○	○	2
12	いちご		○				○	○							○	4
13	きく類	○	○	○		○					○		○			6
14	宿根かすみそう								○		○	○				3
15	りんどう			○		○						○			○	4
16	トルコギキョウ				○				○	○			○	○	○	6
17	枝物類	○			○		○			○						4
	(合計)	7	6	6	7	5	5	6	7	5	6	4	7	4	7	82

本県農業算出額における園芸振興プロジェクトの占める割合

項目	実績(億円)	割合(%)
○基準年(H30)		
農業産出額	2,113	
内、園芸産出額	816	38.6
内、現園プロ品目(10品目)	430	52.6
○現園プロ実績確定年(R6)		
農業産出額	2,874	
内、園芸産出額	997	34.7
内、現園プロ品目(10品目)	542	54.4
○現園プロ目標年(R7)		
農業産出額	2,226	
内、園芸産出額	889	39.9
内、現園プロ品目(10品目)	475	53.4
○新園プロ目標年(R12)		
農業産出額	2,400	
内、園芸産出額	993	41.3
内、新園プロ品目(17品目)	754	75.9